

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月14日

【四半期会計期間】 第52期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 株式会社要興業

【英訳名】 KANAME KOGYO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 木納 孝

【本店の所在の場所】 東京都豊島区池袋二丁目14番8号池袋エヌエスビル

【電話番号】 03-3986-5352

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 村木 宣彦

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区池袋二丁目14番8号池袋エヌエスビル

【電話番号】 03-3986-5352

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 村木 宣彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第2四半期 連結累計期間	第52期 第2四半期 連結累計期間	第51期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	6,418,398	6,663,500	13,029,356
経常利益 (千円)	902,825	941,821	1,786,449
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	607,900	633,382	1,260,422
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	604,003	694,827	1,258,421
純資産額 (千円)	16,775,308	17,759,512	17,429,726
総資産額 (千円)	21,801,979	22,656,271	22,426,748
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	38.30	39.91	79.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	76.94	78.39	77.72
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	897,802	913,597	1,934,175
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	232,143	324,265	451,588
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	508,460	607,778	771,637
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	3,916,538	4,451,842	4,470,288

回次	第51期 第2四半期 連結会計期間	第52期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	19.59	21.89

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における国内景気は、物価高による下押しはあるものの、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へと移行し影響が緩和され、賃金上昇も追い風となって個人消費は徐々に回復しました。一方、世界経済においては、長引くウクライナ情勢等の地政学的リスク、世界的な金融引締めによる金融資本市場の変動や為替相場の急激な変動等様々な景気下振れリスクにも直面しており、予断を許さない状態が続いております。

当社グループの主要業務である廃棄物処理業につきましては、循環型社会形成の推進及び資源の有効利用促進といった、環境保全や法令遵守において当業界に対する社会的要求の高まりに応える努力と変革が求められております。また、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の5類感染症に変更されましたが、環境省において策定された「廃棄物に関する新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」及び一般社団法人日本環境衛生センター・公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センターにおいて策定された「産業廃棄物処理業における新型コロナウイルス対策ガイドライン」に基づいた自主的な感染症対策に取り組んでおります。

このような経営環境の下、一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬処分業務を主業とし、より厳格なコンプライアンスや適正処理の推進、顧客ニーズに合致する営業活動と業容の拡大に取り組んでまいりました。また、コロナ禍からの需要が回復してきたこと等により、収集運搬・処分事業は増収となりました。前年同期に比べ資源価格が下降し、リサイクル事業は減収となり、物価上昇に伴った人件費をはじめとする経費全般が上昇しましたが、徹底した原価低減を継続したこと等により、前年同期に比べ増収増益となりました。

当第2四半期連結累計期間における売上高は6,663,500千円（前年同期比3.8%増）、営業利益は892,936千円（前年同期比1.7%増）、経常利益は941,821千円（前年同期比4.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は633,382千円（前年同期比4.2%増）となりました。

当社グループは単一セグメントであります。事業区分別の売上高では、収集運搬・処分事業4,572,335千円（前年同期比8.3%増）、リサイクル事業657,271千円（前年同期比17.1%減）、行政受託事業1,433,893千円（前年同期比2.1%増）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、以下のとおりであります。

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は6,949,614千円となり、前連結会計年度末に比べ43,698千円減少いたしました。主な要因は、固定資産税支払い等により前払費用が33,367千円増加し、売掛金が55,088千円、現金及び預金が18,446千円減少したことです。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は15,706,657千円となり、前連結会計年度末に比べ273,221千円増加いたしました。主な要因は、千住リサイクルセンター隣地土地取得等により土地が115,333千円、株価上昇に伴い投資有価証券が93,027千円増加したことです。

（流動負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は2,258,996千円となり、前連結会計年度末に比べ21,896千円減少いたしました。主な要因は、期末休日に伴い預り金が53,118千円及び未払費用が39,286千円増加し、未払消費税が63,160千円減少したこと等により流動負債その他が24,090千円増加し、未払法人税等が32,222千円、買掛金が21,974千円減少したことです。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は2,637,762千円となり、前連結会計年度末に比べ78,367千円減少いたしました。主な要因は、約定返済により長期借入金が142,504千円減少し、リース負債が32,050千円、退職給付に係る負債が25,767千円増加したことであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は17,759,512千円となり、前連結会計年度末に比べ329,786千円増加いたしました。主な要因は、配当金の支払による365,041千円の減少と親会社株主に帰属する四半期純利益による633,382千円の増加により利益剰余金が268,341千円、その他有価証券評価差額金が61,445千円増加したことであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループの当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりです。

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の四半期末残高は、前連結会計年度の期末残高に比べ、18,446千円減少し、4,451,842千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が941,721千円となったこと及び減価償却費251,885千円と、法人税等の支払額341,340千円があったこと等により、913,597千円の収入となりました(前年同期は897,802千円の収入)。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、千住リサイクルセンター隣地土地取得等の有形固定資産の取得による支出311,377千円等により、324,265千円の支出となりました(前年同期は232,143千円の支出)。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出146,114千円、ファイナンス・リース債務の返済による支出93,647千円、配当金の支払による支出364,727千円等により、607,778千円の支出となりました(前年同期は508,460千円の支出)。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,871,400	15,871,400	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。
計	15,871,400	15,871,400		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年9月30日		15,871,400		827,736		816,591

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所 有株式数の割合 (%)
藤居秀三	東京都豊島区	2,500,000	15.75
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LTD. (常任代理人 立花証券株式会社)	P,O BOX 309 UGLAND HOUSE, GEORGE TOWN, GRAND CAYMAN KY 1-1104, CAYMAN ISLANDS (東京都中央区日本橋茅場町一丁目13番14 号)	2,180,200	13.73
要興業社員持株会	東京都豊島区池袋二丁目14番8号 池袋エヌエスビル	1,001,100	6.30
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 日本生命証券管理部内	850,000	5.35
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SPECIAL OMNIBUS SECS LENDING ACCOUNT (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都港区港南二丁目15番1号 品川イン ターシティA棟)	839,100	5.28
大星ビル管理株式会社	東京都文京区小石川四丁目22番2号	750,000	4.72
大星ビルメンテナンス株式会社	東京都文京区小石川四丁目22番2号	750,000	4.72
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀 行)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号 決済事業部)	407,700	2.56
藤居幸弥	東京都杉並区	350,000	2.20
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	300,000	1.89
計		9,928,100	62.55

(注) 2022年3月1日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、2022年2月21日現在
でシンフォニー・フィナンシャル・パートナーズ(シンガポール)ピーティーイー・リミテッドが以下の株式
を所有している旨が記載されておりますが、当社として2023年9月30日時点における実質所有株式数の確認が
できませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、その変更報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
シンフォニー・フィナンシャル・ パートナーズ(シンガポール)ピー ティーイー・リミテッド	シンガポール 048624、UOB プラザ #24- 21、ラッフルズ・プレイス80	3,637,500	22.92

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,869,700	158,697	単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,700		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	15,871,400		
総株主の議決権		158,697	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,432,504	5,414,057
売掛金	1,476,002	1,420,914
商品	10,355	5,672
貯蔵品	17,857	15,873
前払費用	43,409	76,777
その他	13,635	16,598
貸倒引当金	451	280
流動資産合計	6,993,312	6,949,614
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,230,137	2,193,221
土地	9,066,622	9,181,955
リース資産（純額）	418,817	443,097
その他（純額）	383,574	451,558
有形固定資産合計	12,099,151	12,269,832
無形固定資産		
その他	34,059	36,503
無形固定資産合計	34,059	36,503
投資その他の資産		
投資有価証券	851,204	944,232
繰延税金資産	387,161	360,043
保険積立金	1,879,292	1,914,242
その他	183,723	183,351
貸倒引当金	1,157	1,548
投資その他の資産合計	3,300,224	3,400,320
固定資産合計	15,433,435	15,706,657
資産合計	22,426,748	22,656,271

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	337,249	315,275
短期借入金	201,656	198,366
1年内返済予定の長期借入金	288,618	285,008
リース債務	181,934	176,931
未払法人税等	373,433	341,211
賞与引当金	213,866	233,979
その他	684,134	708,224
流動負債合計	2,280,892	2,258,996
固定負債		
長期借入金	569,533	427,029
リース債務	273,725	305,775
繰延税金負債	680,429	677,970
退職給付に係る負債	683,208	708,976
役員退職慰労引当金	457,515	466,066
その他	51,717	51,943
固定負債合計	2,716,129	2,637,762
負債合計	4,997,022	4,896,758
純資産の部		
株主資本		
資本金	827,736	827,736
資本剰余金	1,400,341	1,400,341
利益剰余金	15,017,919	15,286,260
自己株式	40	40
株主資本合計	17,245,957	17,514,298
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	183,768	245,214
その他の包括利益累計額合計	183,768	245,214
純資産合計	17,429,726	17,759,512
負債純資産合計	22,426,748	22,656,271

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	6,418,398	6,663,500
売上原価	4,974,526	5,162,204
売上総利益	1,443,871	1,501,296
販売費及び一般管理費	565,503	608,359
営業利益	878,367	892,936
営業外収益		
受取利息	386	63
受取配当金	6,610	7,612
受取保険金	-	10,629
保険解約返戻金	18,759	29,697
その他	6,403	6,600
営業外収益合計	32,159	54,602
営業外費用		
支払利息	7,702	5,717
営業外費用合計	7,702	5,717
経常利益	902,825	941,821
特別利益		
固定資産売却益	1,244	3,898
特別利益合計	1,244	3,898
特別損失		
固定資産除却損	166	3,998
特別損失合計	166	3,998
税金等調整前四半期純利益	903,903	941,721
法人税等	296,002	308,338
四半期純利益	607,900	633,382
親会社株主に帰属する四半期純利益	607,900	633,382

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	607,900	633,382
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,896	61,445
その他の包括利益合計	3,896	61,445
四半期包括利益	604,003	694,827
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	604,003	694,827

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	903,903	941,721
減価償却費	257,201	251,885
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	3,408	8,550
賞与引当金の増減額(は減少)	21,837	20,112
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	219
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	39,613	25,767
受取利息及び受取配当金	6,996	7,675
受取保険金	-	10,629
支払利息	7,702	5,717
保険解約返戻金	18,759	29,697
固定資産売却損益(は益)	1,244	3,898
固定資産除却損	166	3,998
売上債権の増減額(は増加)	17,381	54,697
棚卸資産の増減額(は増加)	12,454	6,666
仕入債務の増減額(は減少)	2,575	21,974
未払消費税等の増減額(は減少)	76,062	51,791
預り金の増減額(は減少)	9,890	53,118
その他	68,241	4,438
小計	1,185,314	1,242,350
利息及び配当金の受取額	6,785	7,675
保険金の受取額	-	10,629
利息の支払額	7,702	5,717
法人税等の支払額	286,594	341,340
営業活動によるキャッシュ・フロー	897,802	913,597
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	0	0
有形固定資産の取得による支出	214,697	311,377
有形固定資産の売却による収入	2,564	6,702
無形固定資産の取得による支出	-	15,197
投資有価証券の取得による支出	4,341	4,464
保険積立金の積立による支出	63,497	65,043
保険積立金の払戻による収入	47,187	65,282
その他	641	168
投資活動によるキャッシュ・フロー	232,143	324,265

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	36,474	3,290
長期借入金の返済による支出	167,124	146,114
ファイナンス・リース債務の返済による支出	108,532	93,647
配当金の支払額	269,277	364,727
財務活動によるキャッシュ・フロー	508,460	607,778
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	157,199	18,446
現金及び現金同等物の期首残高	3,759,339	4,470,288
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,916,538	4,451,842

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
税金費用の計算	当社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
株式会社アルフォ	1,092,302千円	1,016,194千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
役員報酬	94,248千円	96,308千円
給与手当	154,033	168,756
賞与引当金繰入額	35,944	38,308
退職給付費用	8,870	8,818
役員退職慰労引当金繰入額	9,956	9,850
貸倒引当金繰入額	8	261

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	4,878,753千円	5,414,057千円
預入期間が3か月を超える定期預金	962,215	962,215
現金及び現金同等物	3,916,538	4,451,842

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月13日 取締役会	普通株式	269,813	17.00	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額の内訳は、次のとおりであります。

普通配当金 15.00円 記念配当金 2.00円(50周年記念配当)

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月15日 取締役会	普通株式	365,041	23.00	2023年3月31日	2023年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、総合廃棄物処理事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社グループは、総合廃棄物処理事業の単一セグメントであり、主要な顧客との契約から生じる収益を事業区分別に分解した情報は、以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

サービス区分	報告セグメント	合計
	総合廃棄物処理事業	
収集運搬・処分事業	4,220,935	4,220,935
リサイクル事業	792,437	792,437
行政受託事業	1,405,024	1,405,024
顧客との契約から生じる収益	6,418,398	6,418,398
外部顧客への売上高	6,418,398	6,418,398

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

サービス区分	報告セグメント	合計
	総合廃棄物処理事業	
収集運搬・処分事業	4,572,335	4,572,335
リサイクル事業	657,271	657,271
行政受託事業	1,433,893	1,433,893
顧客との契約から生じる収益	6,663,500	6,663,500
外部顧客への売上高	6,663,500	6,663,500

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	38円30銭	39円91銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	607,900	633,382
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	607,900	633,382
普通株式の期中平均株式数(株)	15,871,358	15,871,358

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月14日

株式会社要興業
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員
公認会計士 根本 知香

指定有限責任社員
業務執行社員
公認会計士 大澤 一真

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社要興業の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社要興業及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。